

環境県民フォーラムだよ！

VOL. 54 2025年3月1日 発行

2025年度フォーラム助成金について

当フォーラムでは会員団体を対象に、奈良県内の「地域に根ざした環境保全活動」及び「地球温暖化防止を目的に生活様式の見直しをすすめる活動」に取り組む団体を支援する助成金制度を2023年度より設けており、2025年度も総会での予算承認を条件に募集を行う予定をしています。

2025年度からは活動テーマを指定して助成を行います。今回は「野生生物にかかる環境保全活動」をテーマにした企画を募集いたします。

野生生物の減少については様々な要因が挙げられますが、要因の一つに気候変動、環境汚染や破壊による生息域の減少が挙げられます。また、生息域の減少については里地・里山の荒廃も要因として挙げております。これらの要因は当助成制度の目的に沿った活動を行うことによって解消ができるのではないかと考え、今回の助成のテーマとさせていただきます。

会員はもちろん、会員外の団体においても、要件を満たせば応募が可能ですので、是非テーマに沿った活動を企画いただき、応募してください。



里地・里山に生きるアマガエル

2023年度フォーラム助成金実績報告

環境学習サポーターの養成と環境出前授業「みんなでゼロカーボン！」の実施

実施団体：特定非営利活動法人奈良ストップ温暖化の会NASO

気候変動が深刻です。世界も、日本も、カーボンニュートラル(脱炭素社会)に向かう中、奈良県及び県内市町村においてもゼロカーボンシティ宣言されるところが増えています。次世代を担う子どもたちにも気候変動の現状を伝え、体験を通して学び、対策を考え、実践につなげるため、県内小学校において環境授業を実施しました。今年度から葛城市立全小学校5校13クラス、広陵町立全小学校5校13クラスで実施。先がけて参画型の環境学習教材を開発し、授業を行う「環境学習サポーター」の養成研修を行いました。

環境学習教材は、子どもたちが主体的に参加し、一人ひとりが自分事として考えられる参画型のプログラムとするため、教職経験者にも協力いただき、約半年をかけて開発しました。内容は、物語風に始まる導入部分、地球温暖化の概要、温室効果ガス排出源を考えるグループワークの組み合わせとし、授業の最後には一人ひとりに「環境宣言」してもらった構成としました。

環境学習サポーターは、ストップ温暖化推進員等から募集しました。研修として、教職経験者等を講師に迎え、基礎知識を学ぶ研修、小学校での実地研修、ロールプレイング実習の研修を行い、本番に臨みました。



農ある暮らしから学ぶ資源の循環 実施団体:特定非営利活動法人 さくらい菜の花プロジェクト

今まで菜の花畑は、夏季には草の管理のみでしたが、令和4年度から農ある暮らし体験を通しての世代間交流を目的に菜の花畑の一部をプチ農園にしました。ハーブとさつまいもを皮切りに夏野菜も豊作でした。今回の助成事業により、農ある暮らしを更にバージョンアップして堆肥作りに挑戦できました。家庭の生ゴミ・ナタネの油粕・もみ殻・草木灰・米ぬか・落ち葉などがコンポストで発酵中です。

落ち葉集めは子どもたちが担当しました。この堆肥で夏には美味しいトマトが収穫できることを楽しみにしています。

11月に収穫したレモングラスは、お茶にしたり、枕を作ったり、リースやしめ縄にもしていろいろ楽しみながら資源の循環を学ぶことができました。

今後もこの様な活動を通して、身近な所から各人がちょっと工夫すれば、簡単に楽しみながら実践できる資源の循環を発信していきます。



なら・環境市民講座の開講

実施団体:特定非営利活動法人 奈良環境カウンセラー協会

行政、事業者、市民など多様な主体に共通の課題である2つのテーマ、「SDGs」と「カーボンニュートラル」について、多数の参加が可能なりモート型講座として開催し、後日、録画した映像を編集してYouTubeにて公開しました。

「SDGs」と「カーボンニュートラル」、いずれのテーマも2030年、2050年と達成目標期限が決まっている課題です。この期限を目指して、またそれ以降、未来につなげる持続可能な取り組みが求められています。今回の助成事業により、リモート型講座とYouTubeによる発信というSNSを活用した発信方法の有効性を確認することができました。今後ともこれを活かし、同テーマのみならず、多様な課題テーマについての考察をNECAとして積極的に発信して行きたいと考えます。



◆リモート講座当日の参加者数

- 2月4日「SDGsな暮らしのすすめ」 8名
- 2月6日「カーボンニュートラルな環境経営のすすめ」 10名
- 両日参加 6名

◆YouTubeの視聴回数(3月25日時点)

- 「SDGsな暮らしのすすめ」 24回
- 「カーボンニュートラルな環境経営のすすめ」 22回

2025年度フォーラム助成金

募集期間:2025年4月23日~6月30日

※助成対象団体の条件を満たせば、新規入会団体でも応募は可能です

詳細は[上記募集期間内](#)にホームページを参照ください



賛助会員募集

奈良県環境県民フォーラムは賛助会員として活動をご支援いただける企業、団体等を募集しています。当フォーラムの活動をご理解いただき、賛助会員としてご支援下さいますよう、お願い申し上げます。

特典

1. 広報誌「フォーラムだより」等刊行物をお届けします。
2. ホームページに随時氏名(ご希望の方)を掲載いたします。
3. 主催事業(省エネクッキングなど)に優先的にご参加いただけます。

エネルギー 分科会

植樹バスツアー

10月5日、大和郡山市立野外活動センター「風とんぼ」にて植樹活動を実施し、「エコな～らライフ宣言」(※)の宣言者13名にご参加いただきました。

当日はクチナシの植樹やネイチャーゲームを行った他、ホットドッグづくり等を行いました。

(※)「エコな～らライフ宣言」とは、奈良県環境県民フォーラムが実施するCO2排出量削減キャンペーンで、「家庭で取り組める省エネ行動」の宣言・実践を目的とし、令和6年末で累計481名が宣言されています。



エコクッキング教室

10月19日、奈良市西部公民館で鍋帽子®を使ったエコクッキング教室を開催し、定員を超える13名にご参加いただきました。

当日は、キンパ、酸辣湯、豆花(トウファ)の三品を作りましたが、火にかける時間が少なくても美味しく調理ができることを体感いただき、鍋帽子®の効用を十分にご理解いただくことができました。調理、食事をとても楽しんでくださり、またスタッフに対するねぎらいのお言葉も頂戴し、今後の励みとなりました。

早くから献立づくりを開始し、何度も確認してレシピを完成させる等、入念に準備を行いました。これからも県民の皆さまに省エネな調理方法を知っていただけるよう活動していきます。

エコな～らライフ宣言は
『奈良県環境県民フォーラム』と
検索してチェックしてね！

こちらのQRコードから
もアクセス可能です



奈良県エコキャラクター
な～らちゃん

黒滝村 村営合併浄化槽を視察

今回は、山間部の町村では高い汚水処理率(人口に占める汚水処理人口の比率で令和5年度、88.3%)を達成している吉野郡黒滝村を訪問させていただきました。山々が少し色づき始めた11月15日に7名の参加でした。

黒滝村では平成に入って村の中心部を流れる黒滝川の汚れがひどくなり、本来の清流に戻そうという住民の声が上がり、当時の村長の積極的な取り組みや村の当時の担当課の方々の努力もあり、平成10年度から公共浄化槽整備事業に取り組みられました。この制度の利用は、奈良県では黒滝村だけで村内全戸を対象に村が合併浄化槽を設置して、維持管理し、住民は使用料を支払うという制度です。

一般的に合併浄化槽は個人が設置し浄化槽法で定められた管理を行う必要があり管理が行き届かないケースも見受けられます。村で準備していただいた資料では平成10年から令和5年までに設置された合併浄化槽は350基で、そのうち平成10年から平成16年の7年間で80%に当たる280基が設置され迅速な事業展開が出来たことにより、今では清流に戻った黒滝川は、夏には村外からの観光客で訪れる人が多くなっているそうです。



エコライフ 分科会

環境にやさしいお買い物キャンペーンを開催

10月24日、ならファミリー入口前で、「環境にやさしいお買い物キャンペーン」を実施しました。

例年の啓発活動に加え、今年は、SDGsの17の目標のうち、12番の「つくる責任 つかう責任」に関連する取組であるエシカル消費に注目し、その中でも環境に配慮した商品に表示される認証マークについて、一般消費者の方に認知度アンケートを行いました。

アンケート対象の認証マークとしては、森林の環境に配慮した「FSC」、水産資源・海洋資源や環境に配慮した「MSC・ASC」、環境保全に役立つ商品の「エコマーク」、有機栽培として認定された「有機JAS」の5つのマークにしました。

調査の結果、「エコマーク」は、皆さんよく目にされていて、認知度が高く85%の方が知っておられましたが、「有機JAS」は約40%の認知度で、半数以上の方が知らないと答えられました。さらに、紙製品や紙容器によく表示されている「FSC」の認知度は10%であり、水産物に表示されている「MSC」も10%でした。養殖魚のサーモンなどに表示されている「ASC」マークは6.7%とほとんど知られていませんでした。

他にも環境や社会に配慮した商品に表示される認証マークがありますが、消費者にもっと知っていただきエシカル消費の意識を広げていく事が必要だと感じました。



認知度アンケート

対象認証マーク	知っている	知らない	合計	認知度
FSC 森林の環境に配慮	6	54	60	10.0%
MSC 水産資源や環境に配慮	6	54	60	10.0%
ASC 海の資源や環境に配慮した養殖	4	56	60	6.7%
エコマーク 環境保全に役立つ商品	51	9	60	85.0%
有機JAS 有機JAS規格に適合して栽培された商品	25	35	60	41.7%

自然環境セミナー「ヤマトサンショウウオの保護・保全に向けて」を開催！

「サンショウウオってずっと水の中で生活しているんじゃないのか！」講義を聞いていきなり目からウロコだった。サンショウウオと言えば、テレビ番組やニュースなどでよく出てくる「オオサンショウウオ」のことしか思い浮かばない。清流に住み、水中でずっと生活しているイメージしかなかった。しかし、「サンショウウオは日本の中に52種類もいて、その全てが魚類から両生類へと進化していく過程でいうと大変原始的な形態のものである。魚類が陸上へと上がる過程を研究するという意味合いで学術的な価値が高く、世界の研究者から注目されている。かつてヤマトサンショウウオは紀伊半島のあちこちで、また奈良県内でも多くの地域で生息が確認されていた。それが最近の調査では産卵の状況から、個体数が激減していること、しかも高齢化していることが明らかになっており、このまま放っておくと何年か先には絶滅するだろう。」と佐藤氏は危惧する。

オオサンショウウオを除くサンショウウオは産卵の時だけ水中で数日から数週間いるが、生息するためには産卵する水域の他にも餌をとる場所、生活・休息する場所、冬眠する場所の山林が遮断されることなく保護・保全されている必要がある。

奈良県環境県民フォーラムの代表委員に就任していただいた佐藤氏がライフワークとして取り組んでこられた研究活動は、絶滅危惧種を保護するという意味でも時流に合った注目に値するものであり、みんなでも応援したいと思った。

開催日：11月9日 場所：旧天理市福住中学校

講師：まほろば両生類研究所所長 佐藤孝則 参加者：37名



福住小中学校生物部活動応援キャラクター
「やまとさんしょううお」
イラスト提供：
(株)オータム・カンパニー / davinci, Inc.



「やまと菜の花ねっと」

～菜の花だより・橘だより～



奈良フィールド (活動団体:大和の国・菜の花エコプロジェクト 事務局 宙塾)

北永井フィールドでは、8月下旬から9月初旬にかけて土づくりを始め、下旬から順次菜種をまいていき、北永井町の休耕田では毎月、その他4つの学校園では年20回程の作業を行っております。今は移植や追肥・除草作業を終え、4月13日の菜の花祭りを待つばかりです。今年は休耕田の看板がリニューアルされました。中にトラクターを入れることもでき、菜種を陰干しするスペースにもなるアイデア看板です。

昨年からナルク奈良が県民フォーラムに加入され、期待を膨らませています。各フィールドが環境学習、自然体験の場として、あるいは地域の子もやシルバーはもちろん、社会的に弱い立場の全ての方々の安心して集える居場所となり、環境問題だけでなく防災や安全なまちづくり、地域おこしなど素晴らしいアイデアや取り組みが、その中から生まれ、奈良県内で面となって広がっていくことを願ってやみません。「地域の自然や文化歴史を愛し、世界の平和を願う子どもを！」



薬師寺に奉納



リニューアル看板の前で集合写真



桜井フィールド (活動団体:さくらい菜の花プロジェクト)

3年前から菜の花の裏作として畑の一部で子どもたちと夏野菜などの栽培をしていますが、この夏は雨が少なく成長が遅かった上にカメムシが大発生し、収穫が殆どできませんでした。

ジャガイモとグリーンアスパラは予想以上の収穫量でした。この経験からも自然と農の共生の大切さを学ぶことができました。

11月9日から3日間にわたり市内3か所にナタネの移植をしました。雨が少なく、11月でもチョウチョが来ています。葉を食われてしまい、何度も植え替えしましたが生育状況も良くありません。16年間経験したことがない壁にぶつかっています。

レモングラスは何もしなくても毎年順調です。今年自然体験教室はレモングラスで草木染めをしました。



たくさん収穫できたジャガイモ



園児と菜種を移植



レモングラスで草木染め



葛城フィールド (活動団体:エコ葛城市民ネットワーク)

2024年度も、菜の花プロジェクトをテーマとした環境教育「出前講座」を市内小学校において実施しています。

春から夏にかけて市内すべての小学校で、菜の花の刈り取りから種落とし及び搾油の体験を行っております。また、新庄小学校の児童たちは、遠足の際に自分たちがつくった油を東大寺へ奉納しました。

10月から12月にかけて、廃油の利活用を目的とした体験、「キャンドルづくり」をしました。ガラス瓶を持ち寄り、自分だけのキャンドルを作り上げようと真剣な表情で取り組んでいました。

11月には菜の花の「植え付け」をしました。次の学年の児童たちはNPOが育てた苗の植え付けを土まみれになって楽しんでいました。

なお、『菜の花まつり アースデイinかつらぎ』は4月5日(土)に開催予定です。



廃油でキャンドルづくり



小学生による土まみれになっての植え付け作業

山の辺の道ファンクラブ

初めての試みとして、奈良県主催の「菜の花の苗植付け体験ツアー」を企画していただき応募者とファンクラブでコラボ作業を行いました。企画内容は12月12日と26日9:00～実施しました。作業としては耕作地でマルチ張り、苗植え作業を実施しました。作業日は天気も良く、参加の皆さんには作業を楽しみながら和気あいあいと手際よく実践されていました。

作業後は天理観光農園に移動しBBQを囲んでのファンクラブと参加者の交流会をして大いに盛り上がりました。参加者には菜の花が咲く4月には山の辺の道ファンクラブの菜の花畑を見に来ようと話しておられました。



参加の皆さんとのマルチ張りと苗植え作業



奈良追分コミュニティ

12月24日～26日で、奈良追分コミュニティとして、若年認知症センター「きずなや」、追分梅園組合、G&L共生研究所、富雄クラブ、奈良シニア大学、富雄丸山古墳サポーターズクラブなどが集まり、大和橘の収穫を行いました。収穫した実は、11月末に開店した道の駅「クロスウェイ中町」で、販売しました。垂仁天皇の御代には、不老長寿の霊薬として知られた「大和橘ものがたり」の菜をつけました。

菜の花は、9月から10月にかけて、苗づくりをし、11月から12月にかけて、移植しました。農園や梅園内に移植された苗もだいぶ成長してきています。2月中旬から3月中旬まで、追分梅林の観梅会、3月中旬から4月中旬にかけて、菜の花祭りを行います。皆様のお越しをお待ちしております。



大和橘の収穫と販売



農園や梅園に菜の花を移植



橘プロジェクト（活動団体：なら橘プロジェクト推進協議会）

12月1日、大和郡山市役所交流棟2階で大和橘収穫祭を開催しました。早いもので今年で10回目。その10年前から大和橘の研究をしてくださっている奈良県産業振興総合センター様に香気成分の分析を中心に実生と接木の香り成分など、非常に興味深い発表をしていただきました。



香りの分析を中心にした講演



多様ななかかわりの中で大和橘を使った品々

そのあとに、時間の有る方には電車で尼ヶ辻駅すぐの垂仁天皇陵前の畑に移動していただき、日の入り前のやや暗くなった時間になり申し訳ないと思いつつ、たわわに実る大和橘の収穫体験をしていただきました。夏秋の暑かった気候のせい、例年より色づきが遅く、まだ青い実も多くみられました。また今年の夏は鉄砲虫の発生により、収穫量がかなり減ってしまいました。それでも実りを心待ちにいただいた各方面の方々になんとかお届けができたと思います。

令和6年度ご寄付ありがとうございました
市民生活協同組合 ならコープ様



フォーラムだよ！りの
バックナンバーはこちら

編集・発行：奈良県環境県民フォーラム

【事務局】〒630-8501 奈良市登大路町30番地

奈良県水・大気環境課内

TEL：0742-27-8732 FAX：0742-22-1668